

# 千川中学校だより 12月号 平成29年12月18日(月)

## 「70年の歴史と伝統」

千川中学校長 紅床 直也

今月号は11月25日に挙行了した「創立70周年記念式典」の式辞前半部分で述べさせていただいた、本校の歴史と伝統について記します。本校の周年行事は、本校の在校生・卒業生に先達が営々と築き上げてきた校風に学びながら、地域の学校としての限らない可能性を追い求める主人公になってほしいという願いを込めて作り上げました。



昭和二十二年、戦後新制中学校制度の発足とともに義務教育としての公立中学校が一斉に設置されました。本校も四月二十八日に、豊島区立千早小学校に併設され、一年五学級、二年二学級、三年一学級、計八学級、生徒三百九十八名、教員九名で歴史をスタートさせました。当時の豊島第一高等小学校からの希望者が二、三年に、千早小学校卒業の男子と要町小学校卒業の女子が一年生に入学しました。初代校長の布施久通先生は自ら高等師範学校の卒業生に声をかけ、優秀な教員集めに奔走したそうです。戦後まもなくとあって、授業に必要な紙一枚、チョーク一本にも不自由し、教科書も新聞紙を折りたたんだようなものだったこと、椅子が足りないで椅子と椅子の間に板をわたして三人掛けで勉強をしなければならなかったことも記されています。

開校から一年あまり経って昭和二十三年八月六日にここ高松の地に木造の新校舎が完成・移転されました。夏休み中にも関わらず全生徒が登校して、荷車を借りて机椅子を運搬し、校庭に生い茂った夏草の草取り作業をし、石ころ・瓦のかけらなどを、力を合わせて掘った大きな穴に埋めたそうです。雨が降るとすぐに水たまりが出来て何日も引かない湿地だった校庭も、PTAの方々が中心になっての作業で、白砂に輝く美しいグラウンドになったとのことでした。

このように、千川中学校は創立当初から、学校と保護者と地域と教育行政が「四位一体」の力を結集して誕生しました。そして、「日本一のすぐれた中学生になろう」「天下の千川中を生み出そう」という堅い決意の下、今日の伝統と校風が作られたのでした。

本校の校訓である「信・望・愛」は初代布施久通校長先生の思いを受け継いで、二代佐々木益男校長先生が千川中の教育理念として定められました。本校の教育目標とは別に、生徒の努力目標として伝えられ、あらゆる教育活動の原点となっています。

昭和二十六年十月に本校生徒会が発足して以来、この校訓の下、生徒自身の自治活動が学校発展の一翼を担ってきました。現在の生徒会機関誌の名前でもある「泰山木」は、第七期生が入学記念樹として本校に植えたものから採っています。現在は、職員室前の校庭に植えられ、何代目かの四本の木が毎年六月から七月にかけて香りの良い大輪の白い花を咲かせます。

創立十周年以降の沿革の中では、昭和三十四年十月からの鉄筋校舎建設工事が際立ちます。二期工事を終えた昭和三十六年六月九日に落成式が挙行され、現在の校舎の原型が完成しました。以後何回かにわたる増築工事により、昭和四十九年九月、現在の校舎が完成されました。三四階に体育館兼講堂が乗るといふ当時の最新式の構造であり、この式典会場が正にその場所です。

昭和五十六年十一月二日「創立三十五周年の集い」において、千川中学校讃歌と千中生の歌が披露されているという記述がありました。本校七十年の歴史のちょうど折り返し地点です。讃歌の四番の歌詞に「明日の世界の いない手に 瞳かがやき 今進む みなぎる血潮 胸にだき 誠の道を 歩み行く」という一節があります。当時から本校の教育の目指すところに、豊島区を愛し、日本を愛し、世界に飛び立つ人材を育成するという信念があったことが良く分かります。

時は流れて、今、本校は親子孫三代の通う学校として七十歳を迎えました。今本校に在籍している皆さんの中にも、脈々と受け継がれてきた千川精神が息づいているに違いありません。

これから十年後、本校が創立八十周年を迎えるころには、体育館を含め、日々学習に励んでいるこの校舎は無くなります。その代わりに未来に向けての教育課題に対応した素晴らしい校舎ができることでしょう。平成三十五年四月着工、平成三十七年一学期末竣工予定ですから、八十周年記念誌には新校舎をバックにした写真が掲載されることとなります。その間、一万七千人を超える同窓生の思い出がたくさん詰まった現校舎を磨き上げていきたいと思ひます。

## 能代市いなか体験 11月3日(金)～5日(日)

私たちは、能代いなか体験でたくさんの方々に関わり、さまざまなことを経験することができました。一日目は、能代に着いてから農家さんのお家で野菜の収穫や夕食作りのお手伝いをしました。作り方や食材のことなど、たくさん教えて頂きました。二日目は、能代の中学生との交流でした。町めぐりや発電所見学などをしていく中で、少しずつ距離が縮まり、朝はとても静かだったバスも帰りはすくなくぎやかになりました。三日目は、朝、お散歩に行きました。十一月とは思えないくらい寒かったけど景色も空気もきれいで、最後まで能代を満喫できました。私は、このいなか体験で、都会には無い自然を身近に感じることができました。また、三日間、人の温かさに触れたことで、人と関わることの大切さも学びました。この貴重な経験をこれからの学校生活に生かしていきたいです。

1組 \*\*\*\*

私は能代いなか体験で人の温かみのありがたさを知ることができました。受入農家さんが私たちを海へ連れて行ってくださいました。その時に楽しそうに会話をしている方々がいきました。私が「ご近所さんですか」と尋ねると、「今、初めて会ったよ」とおっしゃっていました。初めて会う人と笑顔で楽しい時間を過ごすことができ、そこで何気ない会話もできるということは、東京ではなかなか無い光景だと感じ、とても素晴らしい日常だなと思いました。また、地元の中学生と町歩きをしている時には、友達や町の人がいることで、楽しいことや嬉しいことが、その倍に感じることができました。私は秋田に行ったことによって、以前より初対面の人と話すことが得意になった気がします。さらに、東京に住んでいるからこぞ分らなかった「東京の良さ」にも気付くことができました。この経験は、これからの自分の生活や自分の将来にも生かしていきたいです。

1組 \*\*\*\*

### ◆◇皆さんの力になります。◇◆

悩んでいることや困ったことがあったら一人で悩まず、先生やスクールカウンセラーの先生等、誰にでもよいので相談してください。スクールカウンセラーの野村真由先生の主な来校日は毎週金曜日です。保護者の皆さまの中でご相談のある方は、相談室への直通電話（03-3957-7169）をご利用ください。不在時は留守番電話にメッセージを残していただければ、折り返しご連絡いたします。

豊島区教育委員会研究推進校 研究発表会 平成30年1月12日(金) 13時25分～

本校は、平成28・29年度の2年間にわたり、「自ら学び、課題を解決する資質の育成～主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の推進～」を研究主題として、授業改善と生徒の学力の向上を図るための研究を進めてきました。その成果を発表いたします。

### ◆◇学校評価アンケートのご協力、ありがとうございました◇◆

お忙しい中、保護者の皆様には学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。この結果をもとに、来年度の教育活動の充実と発展に生かしていきます。なお、結果がまとまりましたらご報告致します。

### 生徒の活躍

#### ○中学生「税についての作文」

豊島納税貯蓄組合連合会 優秀賞「税の使用法」 \*\*\*\* (3年)  
// 優秀賞「国民の信頼と税金」 \*\*\*\* (3年)  
// 優秀賞「身近な税金」 \*\*\*\* (3年)

○薬物乱用防止ポスター 会長賞 \*\*\*\* (2年)・佳作 \*\*\*\* (2年)

○薬物乱用防止標語 会長賞 \*\*\*\* (2年)  
佳作 \*\*\*\*・\*\*\*\*・\*\*\*\*・\*\*\*\* (2年)

○第26回 明日のTOKYO 作文コンクール 入選 \*\*\*\* (3年)

「誰にでもできるボランティア」  
○炎天寺一茶まつり全国小中学生俳句大会 入選 \*\*\*\* (2年)・\*\*\*\* (2年)

○第48回 JXTG 童話賞 中学の部 奨励賞 \*\*\*\* (1年)「スケッチブック」